

国際的結束でテロ組織の包囲を

「イスラム国」による日本人二人の人身質事件は最悪の結果となっており、人々の命を奪ってしまいました。人々の命を奪ってあそぶこうしたテロ組織「イスラム国」の蛮行は断じて許されるものではないと信じます」との報道陣への弁、後藤健二さんのお母さんがコメントなさっていました。が、「今はただ、悲しみ悲しみで涙するのみです」「しかし、その悲しみが『憎悪の連鎖』となってはならないと信じます」との報道陣への弁、今、重要な事は、お母さんの言

葉にも有る通り、国際社会は結束して国連安保理決議2170号が求めているように、外国人戦闘員の参加を阻止し、資金源を断ち、孤立させて確実に追い詰め、武装の解除と組織の解体に追い込んで行く以外に道は有りませんので、日本政府には、これらに資する外交政策を求めるものであります。政府は、これら国際社会の一致点に立って、欧米諸国がテロの標的になるような掃討の名による軍事作戦に走った事を直視し、それとは組みしな道で国際社会に発信する事こそ、果たすべき役割として自覚しなければなりません。

先日、安倍晋三首相は、イスラム国への空爆などへの自衛隊の支援が「憲法解釈上」可能であると述べ、邦人の救出を名目にした自衛隊の海外での活動も視野に入れるような動きも一方では示しており、我が国のテロの標的化に拍車がかかりかねません。

川西町議会では、自衛隊の海外派兵に道を開く、集団的自衛権行使容認の閣議決定の白紙を求める事や、国内での国民の目・耳・口をふさぐ事になる、秘密保護法の廃止を求める意見書など、この手の動きに対して警鐘を鳴らし反対する意思を示しています。再びこのような事態が起こる事の無いよう、国際包囲網を強化し組織を解体に追い込みましょう。川西町議会議員 芝 和也

住民参加のまちづくりを



川西町議会議員

日本共産党 芝 和也

略歴 奈良県立吉野高等学校建築科卒業
奈良県経済農業協同組合連合会勤務
1991年4月 川西町議会議員に28歳で初当選(現在6期目)
副議長・議会運営委員長・各常任委員長など歴任

現在 川西町議会 厚生委員

暴走阻止へ

意見書可決

川西町議会は、海外で戦争する国づくりに繋がる、集団的自衛権の行使を認める安倍内閣の閣議決定が目前に迫った昨年六月議会で、その白紙を求める意見書等を賛成多数で、手話言語の法制化や、医療費の負担軽減に向けウイルス性肝炎患者や子どもの医療費の義務教育終了までを対象にした助成策拡充を賛成全員で議決しました。

昨年可決した意見書

『手話言語法』 制定を求める意見書

医療費支援を国会の付帯決議に沿って実施する事を求める内容。『取り調べの全過程の可視化と検察手持ちの証拠全面開示を求める意見書』

『特定秘密の保護 を求める法律の廃止 を求める意見書』

えん罪の温床が取り調べの過程での証拠のねつ造等、密室によるところが原因で有る事から、その可視化が求められており、かつ、検察の手持ち証拠を開示してこそ、その信ぴょう性がより明らかとなる事からも、それらを全面実施することとえん罪を無くす事を求める内容。

『ウイルス性肝炎 患者に対する医療費 助成の拡充を求める 意見書』

国と同様に、奈良県知事に対して同趣旨の取り組みを求める内容。

『集団的自衛権行 使容認の白紙を求め る意見書』

『窓口負担の無い、
中学校卒業までの子どもの医療費助成制度の創設を求める意見書』

『子どもの医療費 助成制度を病院も中 学校卒業まで拡充す ると共に、窓口無料 とすることを求める 意見書』

国と同様に、奈良県知事に対して同趣旨の取り組みを求める内容。

『窓口負担の無い、 中学校卒業までの子 どもの医療費助成制 度の創設を求める意 見書』

国と同様に、奈良県知事に対して同趣旨の取り組みを求める内容。

『子どもの医療費 助成制度を病院も中 学校卒業まで拡充す ると共に、窓口無料 とすることを求める 意見書』

国と同様に、奈良県知事に対して同趣旨の取り組みを求める内容。

『集団的自衛権行 使容認の白紙を求め る意見書』

国と同様に、奈良県知事に対して同趣旨の取り組みを求める内容。

子育て支援、一歩前進

芝和也議員は、町の魅力の一つとして、子育てしやすい町づくりを求め、これまでから子どもの医療費の無料化策の拡充、ワクチン接種の補助、保育料の軽減等々について提案を重ねて来ています。

これは、遺産相続に関して、結婚歴の有無による民法上の扱いを違憲とする最高裁判決を受け、同様の観点で川西町に置ける国保税、保育料、住宅家賃等の算定基礎が所得税を基準にしてある事から、みなし控除の適用を昨年三月議会で芝和也議員が求めた事に、竹村匡正町長が実施を約束して

は、一人親対策として所得税のみなし控除を適用し、保育料に関して対象の母子の負担が公平に扱われる措置が実施される運びとなりました。

この間、町議会では、芝和也議員が整備を進めるに当たっては町の将来人口を見据え、減少傾向に有る今日、これをマイナス思考に捉える事無く、減少するならするなどの将来計画を立てて、それに沿った実情に応じた整備を求め、

太陽光など 再生可能エネルギーの活用を

川西町議会は、2011年の東日本地震による福島原発事故を受けて、芝和也議員が提案した「我が国における原子力エネルギー政策の転換を求める意見書」を、議員全員の一致で同年の6月議会で議決しています。同意見書では、原子力に依存したエネルギー政策を見直すこと。その為に、太陽光など再生可能エネルギーに電力源の主力を置くよう実施計画を立て

る。原発からの計画的な電力需給割合の引き下げに着手すること。これらを現実の物とする為に、時限目標を持って脱原発のエネルギー政策を構築すること。の、以上四点を求めています。

当時の町長は上田直朗(前)町長でしたが、脱原発の意向には賛成で自治体としても呼応する取り組みを持つ事で、芝和也議員とも議論を重ねていました。現、竹村匡正町長との議論でも、この点での相違は有りません。これまでの町議会では芝和也議員から、公共施設の屋根を活用した住民出資型の市民発電所の取り組みや、屋根その物を太陽光発電事業者に貸し出す事業への取り組み等が提案され、議論が重ねられています。

走りだした地域交通

路線バスが廃止になる中、バス利用者からは、それに代わる移動手段の確保を求める声が高まっており、デマンド交通やコミュニティ等の自治体による代替交通の必要性が現実化しています。

地域交通には、現在実施のコスモス号のような、バス形式での運行方法と、バス並みの料金でタクシーのようにドアからドアへの利用が出来る、乗り合いタクシー形式の運行方法が有ります。

川西町では、住民アンケートを実施し、その必要性を調査した上で、路線バス形式の運行を採用し、コスモス号として町内二路線で23年度から試行運行に取り組み、25年度から本運行として実施されています。

この取り組みは、13年度の予算議会での芝和也議員のデマンド交通(タクシー形式)の取り組みの提案を機に、議論を重ね

先進地を視察する等、今日の取り組みへと繋がっています。

竹村匡正町長は、欠かす事の出来ない交通手段として、今後その充実に努める意向を示しています。ならば、タクシー形式の試行も検討の俎上に載せる事が求められています。

竹村匡正町長は、欠かす事の出来ない交通手段として、今後その充実に努める意向を示しています。ならば、タクシー形式の試行も検討の俎上に載せる事が求められています。

住民の意に沿う、人口動態に応じた町づくりを

川西町では、平成二十八年からの五カ年計画で結崎駅周辺の整備を進める方向で、現在、作業が手掛けられています。既に住民には、この整備計画についての青写真が広報を通じて示されています。

本整備計画については、かねてより周辺住民を始め、結崎駅利用者からも、南北間の車の動線確保と、踏切の幅員拡幅、東側改札の設置等が要望されており、加えて、近鉄が鉄道事業者として国の指導の下、バリアフリー化に向けた駅舎の一部改修を手掛ける必要が生じており、応分の費用負担を川西町にも求めて来ている事から、懸案の整備に向けて、町の玄関口としての体裁

を整え直す事と、町の人口増に向けた企業誘致の政策等を一体に進める事で一連の取り組みを手掛け、現在に至っています。

町は、事を進めるに当たって住民アンケートを実施し、住民代表を交えた説明会も開催し、事業の具体化に向けて作業を進めてい

明しています。人口問題は、我が国全体が減少に有る事から、増やす工夫も然る事ながら、行政が気軽に住民懇談会を開催し、互いの意思の疎通を交え、意に沿い願いに応えながら、現実を直視し、今般で言えば総額約三十億(町負担は概ね半分)の予算活用の判断を皆が問える事が求められています。

この間、町議会では、芝和也議員が整備を進めるに当たっては町の将来人口を見据え、減少傾向に有る今日、これをマイナス思考に捉える事無く、減少するならするなどの将来計画を立てて、それに沿った実情に応じた整備を求め、

全体が減少に有る事から、増やす工夫も然る事ながら、行政が気軽に住民懇談会を開催し、互いの意思の疎通を交え、意に沿い願いに応えながら、現実を直視し、今般で言えば総額約三十億(町負担は概ね半分)の予算活用の判断を皆が問える事が求められています。